NL9723DC

－ バーコード実績収集システム －

取扱説明書

1.4c 版

日栄インテック株式会社
バーコードグループ

はじめに

■はじめに

この度は「NL9723DC」をご購入いただき、誠にありがとうございます。
ご使用の際に、次の注意がございますので、ご一読のほどお願い申し上げます。

■ ご注意

CRD972xRU 通信ユニットにて USB 接続を選択された場合は、付属のドライバーをインストールして下さい。

■ 安全上のご注意

注意 説明内容を無視した場合、 傷害を負う可能性または 物的損害を発生する可能性が 想定されます。	感電、けがの恐れがありますので、 下記事項を必ずお守りください。 ■電源は正しく接続すること。 ■定格電圧以外の電圧を印加して使用しない ■分解しないこと。 ■製品を水に濡らさいないこと

■ ご使用上の注意事項

製品の故障・性能劣化や誤動作の原因となりますので、必ず次の内容を
お守り下さい。

◎ ほこりや直射日光の当たる場所、高温、多湿となる場所は避けてお使い下さい。
◎ 水・油・薬品などのついた手で操作しないで下さい。
◎ 製品に強い衝撃を加えたり、落下させたりしないで下さい。
◎ 高電圧装置、大型モータなどの放射ノイズの大きい機器に接近しての使用は
　避けて下さい。
◎ ケーブルは強く引っ張ったり、屈曲させたりしないで下さい。
◎ 3ヶ月以上の放置は避けて下さい。二次電池まで空になると、内部プログラムが正常動作しなくなる可能性があります。その場合の復帰作業は、保障期間外である場合、有料となります。

■ 最新情報

弊社 WEB サイト http://www.barcode.ne.jp/で最新の情報をご覧いただけます。

目次

１．添付品の確認

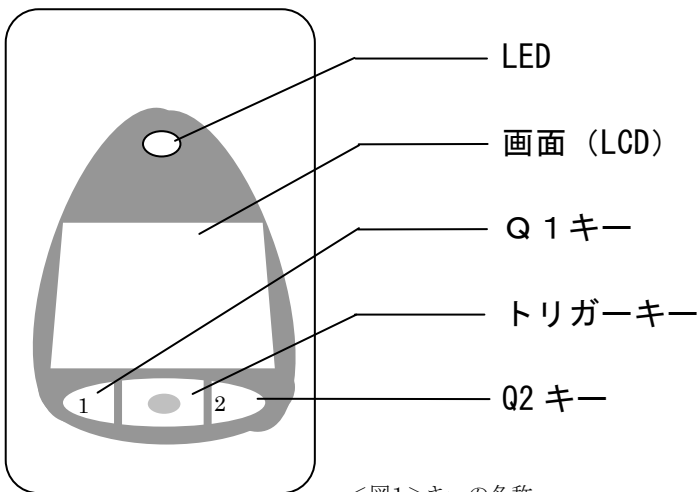
梱包箱を開けたら下記のものが添付されているかご確認下さい。

1） NL9723DC（本体）

2） ハンドストラップ

3） リチウムイオン充電池

２．操作キーの名称

バーコードスキャナ操作キーの名称を図1に示します。

＜図1＞キーの名称

３．電池のセット

1） NL9723DC 本体の裏面にある電池蓋をはずします。（爪等を剥がないように注意して作業してください）

2） リチウムイオン充電池をセットします。

3） 電池蓋を本体にセットします。

◎ <u>充電池の取り付け方向を間違わないで下さい。間違えて無理に装着しますと、故障の原因になります。</u>

◎ <u>充電池は落下等の外部からの衝撃に大変弱く、故障の原因となります。取扱には充分お気をつけ下さい。</u>

４．基本操作

１） 本バーコードスキャナでの共通認識として

[桁数]という表現がある場合、初期設定ではスタートストップ(CODE39・NW7)、チェックキャラクタ（各種バーコード種毎）も含みます。システム設定において、スタートストップ、チェックキャラクタ(末尾文字)を外すことが出来ます。外した場合は桁数に含まれません。

保存するデータ桁数を限定することで、保存するデータ総数が増減します。スタートストップやチェックキャラクタ(末尾文字)を保存しないことで、保存できるデータ総数は微増します。

２） 数量の設定

[Q1]または[トリガー]または[Q2]キーで起動 > メインメニューの[6．システム設定] > [2．数量設定] > [あり] または[常時 1]で、数量登録モードを設定します。

あり　　:データ収集後に数量入力画面にて数量を登録できます。
常時１　:数量を常に[1]として登録しますので、連続してデータ収集できます。

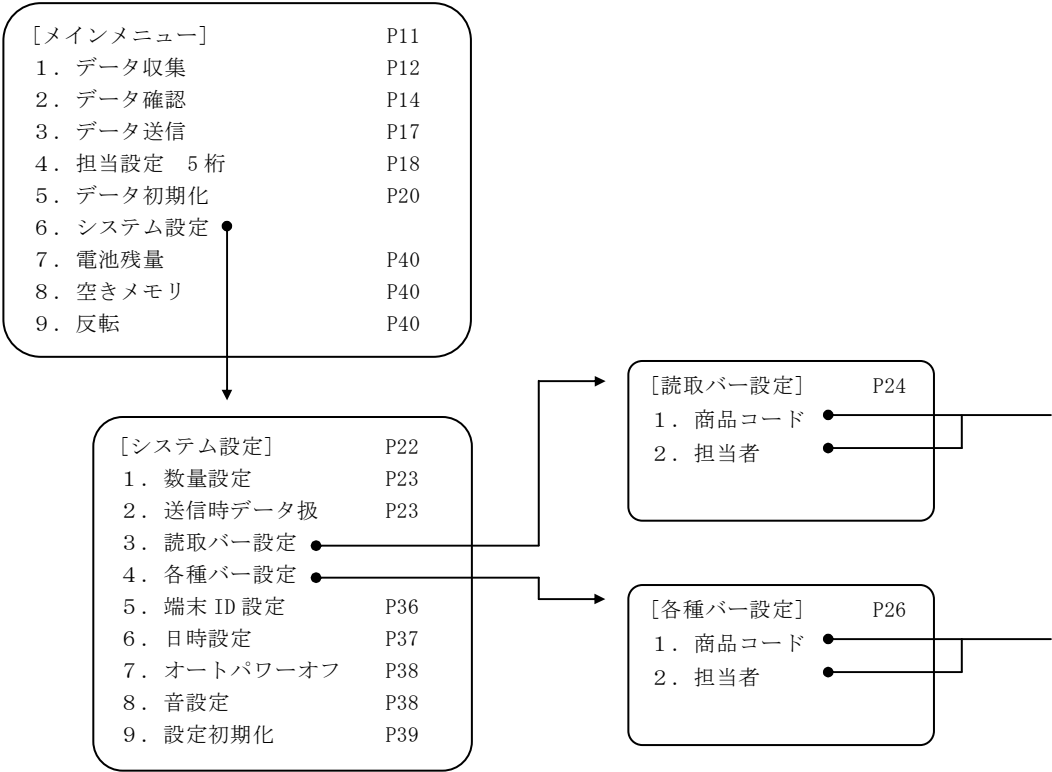
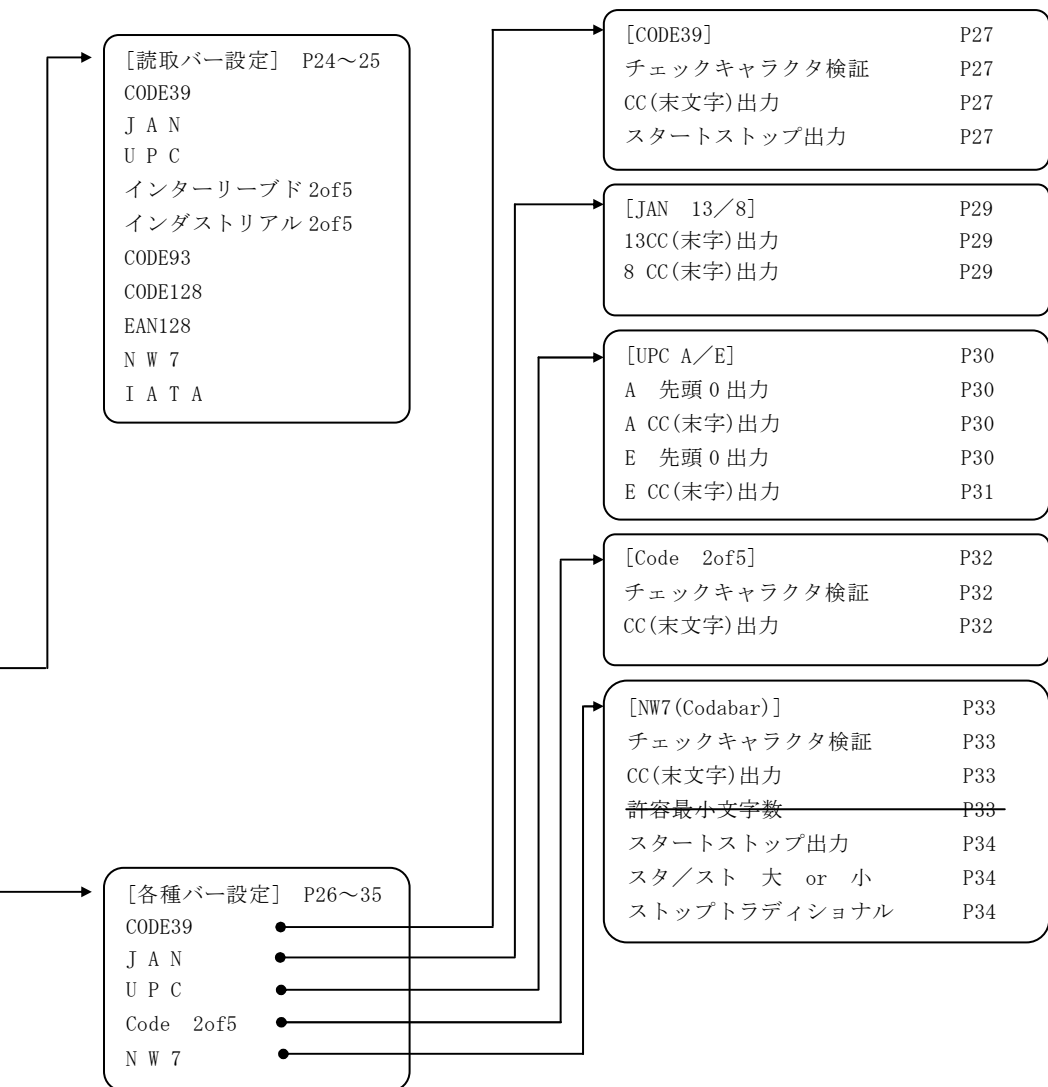
５. メニュー構成

本バーコードスキャナの電源 OFF は、オートパワーオフ設定により制御され、次回起動時には、前回電源 OFF になったときの画面から開始します。

3つのキーの基本的動作は以下のようになります。

トリガーキー： 項目確定、読取り
Q1キー　　： カーソル下へ、前レコードへ
Q2キー　　： カーソル上へ、次レコードへ

※各画面によって上記動作に倣わない場合もあります。各種画面の説明書をご覧下さい。

本バーコードスキャナのメニュー構成を下記に示します。

※罫線のある項目はハードウェア改訂に伴い、一旦削除されております。

６．各種設定のデフォルト(既定)値

設定番号	メニュー	項目	値
1	メインメニュー	担当者設定　5 桁	(空)
2	メインメニュー	初期化[　桁数　]	20
3	システム設定	数量設定	入力あり
4	システム設定	送信時データ扱	残す
5	読取バー設定	商品コード[　CODE39　]	＊
6	読取バー設定	商品コード[　JAN　]	＊
7	読取バー設定	商品コード[　UPC　]	＊
8	読取バー設定	商品コード[　ｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞﾄﾞ 2of5　]	＊
9	読取バー設定	商品コード[　ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｱﾙ 2of5　]	＊
10	読取バー設定	商品コード[　CODE93　]	＊
11	読取バー設定	商品コード[　CODE128　]	＊
12	読取バー設定	商品コード[　EAN128　]	
13	読取バー設定	商品コード[　NW7　]	＊
14	読取バー設定	商品コード[　IATA　]	
15	読取バー設定	担当者[　CODE39　]	＊
16	読取バー設定	担当者[　JAN　]	
17	読取バー設定	担当者[　UPC　]	
18	読取バー設定	担当者[　ｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞﾄﾞ 2of5　]	
19	読取バー設定	担当者[　ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｱﾙ 2of5　]	
20	読取バー設定	担当者[　CODE93　]	＊
21	読取バー設定	担当者[　CODE128　]	＊
22	読取バー設定	担当者[　EAN128　]	
23	読取バー設定	担当者[　NW7　]	＊
24	読取バー設定	担当者[　IATA　]	
	各種バー設定	商品コード[　CODE39　]	
25		チェックキャラクタ検証	なし
26		CC(末文字)出力	あり
27		ｽﾀｰﾄｽﾄｯﾌﾟ出力	あり
	各種バー設定	商品コード[　JAN　13／8　]	
28		13CC(末字)出力	あり
29		8CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	商品コード[　UPC　A／E　]	
30		A　先頭 0 出力	あり
31		A　CC(末字)出力	あり
32		E　先頭 0 出力	あり

33		E CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	商品コード[Code 2of5]	
34		チェックキャラクタ検証	なし
35		CC(末文字)出力	あり
	各種バー設定	商品コード[NW7(Codabar)]	
36		チェックキャラクタ検証	なし
37		CC(末文字)出力	あり
38		許容最小文字数	なし
39		スタートストップ出力	あり
40		スタ／スト 大 or 小	小文字
41		ストップトラディショナル	abcd
	各種バー設定	担当者[CODE39]	
42		チェックキャラクタ検証	なし
43		CC(末文字)出力	あり
44		スタートストップ出力	あり
	各種バー設定	担当者[JAN 13／8]	
45		13CC(末字)出力	あり
46		8CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	担当者[UPC A／E]	
47		A 先頭 0 出力	あり
48		A CC(末字)出力	あり
49		E 先頭 0 出力	あり
50		E CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	担当者[Code 2of5]	
51		チェックキャラクタ検証	なし
52		CC(末文字)出力	あり
	各種バー設定	担当者[NW7(Codabar)]	
53		チェックキャラクタ検証	なし
54		CC(末文字)出力	あり
55		許容最小文字数	なし
56		スタートストップ出力	あり
57		スタ／スト 大 or 小	小文字
58		ストップトラディショナル	abcd
59	システム設定	オートパワーオフ	30 秒
60	システム設定	音設定	あり

※罫線のある項目はハードウェア改訂に伴い、一旦削除されております。

7. 各メニューの説明

A. メインメニュー

NL9723DC の初回の起動時に下記のような画面が表示されます。
(初回に限らず、この画面で電源 OFF となれば、次回起動時もこの画面です。)
[Q1][Q2]キーにより選択項目を変更し、[トリガー]キーで選択を行います。

```
＊  NL9723  DC  ＊
1. データ収集
2. データ確認
3. データ送信
4. 担当設定  5桁
5. データ初期化
6. システム設定
7. 電池残量
8. 空きメモリ
9. 反転
```

1. データ収集ー データ収集、数量入力、データファイルへの保存を行います。[6. システム設定]の設定により、様々な収集を行います。

2. データ確認ー 保存中のデータ確認または1件づつ削除を行います。

3. データ送信ー 保存されたデータを PC へ送信します。

4. 担当設定 5 桁ー 担当者コードを 5 桁以内で設定します。収集作業する担当者をレコード単位で保存できます。

5. データ初期化ー データ設定を指定桁数で初期化します。保存中のデータは消去されます。適切な桁数で初期化をすることにより、スキャナ内に保存可能なレコード数が増減します。

6. システム設定ー 収集に関する設定、端末(スキャナ)ID 設定、読取バー設定、各種バー設定、システム時刻設定、オートパワーオフ設定、などを行います。

7. 電池残量ー スキャナの電池残量を表示します。

8. 空きメモリー スキャナの保存可能レコード数を概算で表示します。

9. 反転ー 画面を[白黒反転]させることが出来ます。

B. データ収集

B.1 開始

[メインメニュー]で[1. データ収集]選択して[トリガー]キーを押します。
[6. システム設定]の[1. 数量設定]により、
2 通りの収集工程を選択できます。以下の通りです。

1:[商品コード] → [数量] 商品コードに戻る
数量設定:あり
2:[商品コード]の繰り返し
数量設定:常時 1

	数量設定
1	あり
2	常時 1

データ収集とシステム設定(設定番号 3)の相関図

B.2 収集

設定番号 3 の[数量設定]が[あり]の場合の次工程は数量入力です。
[常時 1]の場合は[収集]です。

入力待ち画面:

入力後画面:

[トリガー]キーを押して、バーコードの読取りを行います。

B.3 数量入力

設定番号 3 の[数量設定]が[常時 1]の場合、この工程は省かれます。

数量 0000
450000000000x
0001
移動 設定 UP

表示変更画面:

数量 0000
450000000000x
10/01 10:10:10
移動 設定 UP

入力後画面:

数量を変更する場合、[Q1] キーを押すと一の位→十の位→百の位→千の位→一の位と、変更可能桁を移動させます。[Q2] キーを押すことで、カウントアップします。

設定番号 3 の[数量設定]が[あり]の場合にも、数量 1 で登録する場合は、続けて[トリガー]キーを押して下さい。

C. データ確認

C.1 開始

メインメニューで「2. データ確認」を選択して[トリガー]キーを押します。

確認画面1: 確認画面 2:

確認画面の切替は、C.3 確認画面の小メニュー参照。

C.2 確認

[確認画面1]及び[確認画面2]の各説明は下表の通りです。

	確認画面1	確認画面2
1 行目	タイトル [レコード番号(n 件目)/総数]	収集日付(yy/mm/dd) 時間(hh:mm)
2 行目	項目名	項目名
3 行目	商品コード	数量
4 行目	[前へ]:前レコードへ [選択]:小メニュー表示 [次へ]:次のレコードへ	

[データ確認]画面説明

C.3 確認画面の小メニュー

[データ確認]画面で、[トリガー]キーを押すと小メニューが表示されます。

確認画面の小メニュー:

小メニュー	機能
内容切替	[確認画面1]、[確認画面2]の内容切替。
確認終了	[メインメニュー]に戻ります。
キャンセル	小メニューを閉じます。
削除	表示中のデータを一行削除します。

確認画面の小メニュー

C.3-1 内容切替

確認画面の小メニュー:

[内容切替]選択状態(例:上表)で[トリガー]キーを押すと、
[確認画面1]、[確認画面 2]が交互に表示されます。

C.3-2 確認終了

確認画面の小メニュー:

[確認終了]選択状態(例:上表)で[トリガー]キーを押すと、
[データ確認]を終了し、[メインメニュー]に戻ります。

C.3-3 キャンセル

確認画面の小メニュー:

[キャンセル]選択状態(例:上表)で[トリガー]キーを押すと、
小メニューを閉じ、[データ確認]に戻ります。

C.3-4 削除

確認画面の小メニュー:

[削除]選択状態(例:上表)で[トリガー]キーを押すと、
削除確認画面が表示されます。

選択データを
削除しますか？
中止　　　削除

削除確認画面:

[Q2]キーを押すと選択中のレコード 1 件が削除されます。
また、[Q1]キーを押すと、削除を行わず、確認画面に戻ります。

選択データを
削除しました

確認

削除完了画面:

削除を行うと確認画面が表示されます。
[Q2]キーを押して終了して下さい。

収集　　0007/0014
データ
　450000000000x
前へ　選択　次へ

確認画面:

レコード削除後の画面では、総数は 1 件減じて、次のレコード(最終レコードを削除した場合は、前レコード)を表示します。

D. データ送信

D.1 開始

[メインメニュー]で[3. データ送信]を選択して[トリガー]キーを押します。

画面	説明
データ送信 送信しますか？ 中止　送信	この画面で[Q2]キーを押すと送信待ち状態になります。 [Q1]キーを押すと[メインメニュー]に戻ります。

送信確認画面:

画面	説明
データ送信 クレードルに設置 して下さい 中止	この画面でクレードルに置くと送信を開始します。 [Q1]キーを押すとメインメニューに戻ります。

送信準備画面:

画面	説明
データ送信 受信ソフトを 操作して下さい 中止	クレードルに置いた時に、左画面になった場合は、 PC 側のソフトを受信状態にして下さい。 [Q1]キーを押すとメインメニューに戻ります。

送信準備画面 2:

画面	説明
送信正常終了 しました 確認	送信が正常終了した場合、左画面が表示されます。 [Q2]キーを押すとメインメニューに戻ります。

送信終了画面:

画面	説明
送信異常終了 しました 確認	送信が異常終了した場合、左画面が表示されます。 [Q2]キーを押すとメインメニューに戻ります。

送信エラー画面:

送信後のデータの取扱については下表を参考にして下さい。

設定番号 4 の設定値	意味
残す	送信後もデータを保持しています。
消去	送信後、データを消去します。

設定番号 4:「データ送信時データ扱」の設定説明

E. 担当設定

E.1 開始

[メインメニュー]で[4. 担当設定　5 桁]を選択して[トリガー]キーを押します。

E.2 担当者登録と変更

担当者コードを設定しておくことで、作業担当者をレコードごとに保存できます。
作業途中で変更した場合も、その変更後の作業から、変更後担当者コードが保存されます。

```
*担当設定　(5)*
現在担当：
　　　[　　　]
終了　読込　消去
```

担当設定及び確認画面:

この画面で[トリガー]キーを押すと担当者コードを設定できます。
[Q1]キーを押すと[メインメニュー]に戻ります。
[Q2]キーを押すと登録済担当者をクリアします。
3段目の[ ]内に表示された文字が担当者コードとなります。

```
*担当設定　(5)*
現在担当：
　　　[a123a]
終了　読込　消去
```

担当設定及び確認画面:

設定できる担当者コードは最大 5 桁で、スタートストップ、チェックキャラクタ等もデフォルトでは登録対象桁数に含みます。
左図は NW7（Codabar）スタートストップ付 5 桁の担当者コードの例です。

E.3 担当者コード登録時の注意点

担当者コードとして登録したいバーコードが読み取れず登録できない場合には、以下のような場合が考えられます。

○読み取っている対象バーコードの種類が許可されていない。
○読み取っている対象のバーコードデータの桁数が 6 桁以上ある。
○読み取っている対象のバーコードがそもそも読み取りづらくただの縞模様である。

縞模様である場合以外は、担当者コードとして登録できる場合があります。
設定番号 15～24 の[読取バー設定]-[担当者]にて各バーコード種類に記しを付けて、担当者コードとして許可するバーコード種類を選択して下さい。
上記で許可したバーコード種類について、設定番号 42～58 の[各種バー設定]-[担当者]にて各種バーコードについて設定した場合、[スタートストップ／なし]、[末尾文字／なし]などの設定が可能です。これにより、＊12345＊ など CODE39 でスタートストップを含んで 5 桁を越えている場合、[設定番号 44:スタートストップ出力]をなしにすると、実質 5 桁となり、担当者コードとして登録できます。

CODE39(データ3桁)の例

こちらは、[設定番号 15:読取バー設定-担当者 CODE39]に記がついていれば、

設定番号 44 の設定値	上記バーコード例の場合の担当者コード登録状況	登録担当者コード
あり	登録できます。	＊123＊
なし	登録できます。	123

担当者コード設定説明

CODE39(データ5桁)の例

こちらは、[設定番号 15:読取バー設定-担当者 CODE39]に記がついていた場合でも、
設定によっては読み取れない場合があります。

設定番号 44 の設定値	上記バーコード例の場合の担当者コード登録状況	登録担当者コード
あり	登録できません。	―
なし	登録できます。	12345

担当者コード設定説明

F. データ初期化

F.1 開始

[メインメニュー]で[5. データ初期化]を選択して[トリガー]キーを押します。

F.2 初期化(データ消去)実行

データ初期化
データを
初期化します
中止　桁数　実行

データ初期化画面:

データ初期化の前に左記の確認画面が表示されます。
[Q2]キーを押すと、データを初期化します。
[Q1] キーを押すと、処理を中止して、メインメニューに戻ります。
[トリガー]キーを押すと、読取りバーコード桁数(保存桁数上限)を設定できます。桁数のデフォルト値は[20]です。

データ初期化
データを
初期化しました
確認

データ初期化完了画面:

データ初期化後実行後、左の確認画面が表示されます。
[Q2]キーを押すとメインメニューに戻ります。

F.3 保存桁数変更

データ初期化
データを
初期化します
保存桁数: 20

保存桁数設定画面:

桁数変更時は4行目に[保存桁数:＊＊](＊＊の値は 01～41)が表示され、[Q1]キーで減少、[Q2]キー上昇させて値を変更して、[トリガー]キーで確定します。

データ初期化
保存想定回数 :
約　1179 回
中止　桁数　実行

設定保存桁数による
保存可能想定数画面:

設定した読取りバーコード桁数により、保存データレコード数が増減します。初期化を決定するには[Q2]キーを押してください。
[Q1]キーで中止します。
保存想定回数は、内部に画面情報を持つ関係上、いつも一定ではありませんが、表示されている回数が目安となります。

G. システム設定

G.1 開始

[メインメニュー]で[6. システム設定]を選択して[トリガー]キーを押します。

［Q1］［Q2］キーにより、変更確認したい項目を変更し、[トリガー]キーで選択を行います。

```
＊システム設定＊
   設定　終了
1. 数量設定
2. 送信時データ扱
3. 読取バー設定
4. 各種バー設定
5. 端末 ID 設定
6. 日時設定
7. オートワパーオフ
8. 音設定
   設定終了
```

1. 数量設定ー 数量設定([あり]若しくは[常時 1])を設定します。

2. 送信時データ扱ー PC へデータを送信した直後、そのデータを消去する、若しくは残すのかを設定します。

3. 読取バー設定ー 「商品コード」、「担当者」それぞれについて、読取りを許可するバーコード種類を選択出来ます。(つまり余分なバーコード種類の読取りを禁止できます。)

4. 各種バー設定ー 「商品コード」、「担当者」それぞれについて、各種バーコードについて読取り時の設定が出来ます。チェックキャラクタ検証を行う、末文字出力、スタートストップ出力などで、その設定可能項目は、各バーコード種類によって様々です。

5. 端末 ID 設定ー NL9723DC の個別 ID を設定できます。PC への送信データのレコード先頭に付加します。

6. 日時設定ー NL9723DC の日付及び時間の設定ができます。データ保存時の時間に使用されます。

7. オートパワーオフー NL9723DC のオートパワーオフまでの時間を設定できます。5, 10, 15, 30, 45, 60, 120, 180 秒の8段階です。

8. 音設定ー NL9723DC 操作時の音の有無を設定出来ます。

前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[トリガー]キーを押してください。

G.2 数量設定

[システム設定]メニューで[2. 数量設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。
3 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][トリガー][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

＊数量入力設定＊
現在：入力あり

あり　常時 1

数量設定画面1:

＊数量入力設定＊
現在：常時 1

あり　常時 1

数量設定画面2:

設定番号 3 の設定値	機能
あり	1～9999 の数値を登録できます。
常時 1	数量登録画面は表示されず、常に1で登録されます。

設定番号 3:「数量設定」の設定説明

G.3 送信時データ扱設定

[システム設定]メニューで[3. 送信時データ扱]を選択すると下記のような画面が表示されます。
3 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

＊送信時データ扱＊
現在：　消去

消去　残す

＊送信時データ扱＊
現在：　残す

消去　残す

送信時データ扱い設定及び確認画面:

設定番号 4 の設定値	機能
消去	データを PC へ送信後データを削除します。
残す	データを PC へ送信後データを削除しません。

設定番号 4:「送信時データ取扱い」の設定説明

G.4 読取バー設定

[システム設定]メニューで[4．読取バー設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。
[商品コード]、[担当者]それぞれについて、読取り可能なバーコードの種類を設定します。該当項目を[Q1][トリガー][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[トリガー]キーを押してください。

[照合元]、[照合先]、[担当者]それぞれについて、バーコード種類名の左に[＊]印が付いている場合に読取り可能となります。
[トリガー]キーで[＊]を付けたり外したりします。

読取許可バーコード設定
及び確認画面:

設定番号 5～24の設定値	機能
CODE39	CODE39 で作られたバーコードを読取り許可にします。
JAN	JAN13 及び JAN8 で作られたバーコードを読取り許可にします。
UPC	UPC-A 及び UPC-E で作られたバーコードを読取り許可にします。
ｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞﾄﾞ 2of5	インターリーブド 2of5 で作られたバーコードを読取り許可にします。
ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｱﾙ 2of5	インダストリアル 2of5 で作られたバーコードを読取り許可にします。
CODE93	CODE93 で作られたバーコードを読取り許可にします。
CODE128 EAN128	この2つは組合せで、機能が変わります。 ●CODE128 のみの場合： CODE128 で作られたバーコードを読取り許可にし、EAN128 で作られたバーコードを CODE128 として読取り許可にします(スタートコードの直後の FNC1、AI(10) ロット番号(バッチ番号)のような可変長データの後ろの区切り FNC1 を考慮しません)。 ●EAN128 のみの場合： CODE128 で作られたバーコードを読取り不許可にし、EAN128 で作られたバーコードを EAN128 として読取り許可にします(スタートコードの直後の FNC1、AI(10) ロット番号(バッチ番号)のような可変長データの後ろの区切り FNC1 を考慮します)。 ●両方[＊]付の場合： CODE128 で作られたバーコードを読取り許可にし、EAN128 で作られたバーコードを EAN128 として読取り許可にします(スタートコードの直後の FNC1、AI(10) ロット番号(バッチ番号)のような可変長データの後ろの区切り FNC1 を考慮します)。 ●両方[＊]無の場合： CODE128 で作られたバーコードを読取り不許可にし、EAN128 で作られたバーコードを読取り不許可にします。
NW7	NW7 で作られたバーコードを読取り許可にします。
IATA	IATA で作られたバーコードを読取り許可にします。

設定番号 5～24：「読取許可バーコード種類設定」

前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[トリガー]キーを押してください。

[商品コード]、[担当者]それぞれで[読取り可能バーコード種類]を絞ることで、業務上の読取りミスを無くします。

G.5 各種バー設定

[システム設定]メニューで[5. 各種バー設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。
[商品コード]、[担当者]それぞれについて、読取るバーコードの細かな設定をします。該当項目を[Q1][トリガー][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[トリガー]キーを押してください

[商品コード]、[担当者]それぞれについて、各種読取対象バーコードの読取条件や保存条件を設定します。設定を変更する　バーコード種類名を[Q1][トリガー][Q2]キーそれそれで選択して下さい。

各種バーコード詳細設定画面:

G.5-1 CODE39（各種バー設定）

[各種バー設定]画面で[CODE39]を選択すると下記のような画面が表示されます。

CODE39 各種設定選択画面:

以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1] [Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

G.5-1-1 チェックキャラクタ検証（CODE39 各種バー設定）

ﾁｪｯｸｷｬﾗｸﾀ 検証
現在： あり
あり なし

ﾁｪｯｸｷｬﾗｸﾀ 検証
現在： なし
あり なし

CODE39 チェックキャラクタ検証設定及び確認画面:

G.5-1-2 CC(末文字)出力（CODE39 各種バー設定）

CC(末文字)出力
現在： あり
あり なし

CC(末文字)出力
現在： なし
あり なし

CODE39 チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

G.5-1-3 スタートストップ出力（CODE39 各種バー設定）

ｽﾀｰﾄｽﾄｯﾌﾟ 出力
現在： あり
あり なし

ｽﾀｰﾄｽﾄｯﾌﾟ 出力
現在： なし
あり なし

CODE39 スタートストップ出力設定及び確認画面:

設定番号 25～27、42～44 の設定値	機能
チェックキャラクタ検証	CODE39 で作られたバーコードを読取る際に、チェックキャラクタ(チェックデジット)モジュラス 43 の検証の有無を設定します。 [あり]の場合、チェックキャラクタが付加されていない若しくは間違っているバーコードは読み取れません。
CC(末文字)出力	[なし]の場合、CODE39 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット) モジュラス 43 かどうかの判定はしていません。
スタートストップ出力	[なし]の場合、CODE39 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、スタートストップコード(＊)を除去します。

設定番号 25～27、42～44:「CODE39 詳細設定」

下記バーコードは CODE39 で、[100]にモジュラス 43 チェックキャラクタ(チェックデジット)[1]が付加されたバーコード例です。設定番号 25を[あり]でも[なし]でも読み取れます。設定番号 26 を[なし] 設定番号27を[あり]にすると[*100*]と保存され、設定番号 26 を[なし] 設定番号 27を[なし]にすると[100]と保存されます。

CODE39 モジュラス 43 チェックキャラクタ付加の例:

下記バーコードは CODE39 で、[100]のバーコード例です(チェックキャラクタ無)。設定番号 25 を[あり]にしていると読み取れません。設定番号 26 を[なし] 設定番号 27を[あり]にすると[*10*]と保存され、設定番号 26 を[なし] 設定番号 27を[なし]にすると[10]と保存されます。

CODE39 モジュラス 43 チェックキャラクタ無しの例:

G.5-2 JAN13　JAN8（各種バー設定）

[各種バー設定]画面で[JAN]を選択すると下記のような画面が表示されます。

```
＊ JAN 13/8 ＊
設定　終了
13CC(末文字)出力
8 CC(末文字)出力
設定　終了
```

JAN13/8 各種設定選択画面:

以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

G.5-2-1　13CC(末字)出力 （JAN13 各種バー設定）

```
13CC(末字)出力
現在：　あり

あり　　　　なし
```

```
13CC(末字)出力
現在：　なし

あり　　　　なし
```

JAN13 チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

G.5-2-2　8CC(末字)出力 （JAN8 各種バー設定）

```
8 CC(末字)出力
現在：　あり

あり　　　　なし
```

```
8 CC(末字)出力
現在：　なし

あり　　　　なし
```

JAN8 チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

設定番号 28～29、45～46 の設定値	機能
13CC(末字)出力	[なし]の場合、JAN13 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。
8CC(末字)出力	[なし]の場合、JAN8 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。

設定番号 28～29、45～46:「JAN13/8 詳細設定」

G.5-3 UPC A/E（各種バー設定）

[各種バー設定]画面で[UPC]を選択すると下記のような画面が表示されます。

＊ UPC A/E ＊
設定　終了
A　先頭0出力
A　CC(末字)出力
E　先頭0出力
E　CC(末字)出力
設定　終了

UPC　A/E 各種設定選択画面:

以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

G.5-3-1　A 先頭 0 出力（UPC-A 各種バー設定）

A　先頭0出力	A　先頭0出力
現在：　あり	現在：　なし
あり　　なし	あり　　なし

UPC-A 先頭 0 出力設定及び確認画面:

G.5-3-2　A CC(末字)出力（UPC-A 各種バー設定）

A CC(末字)出力	A CC(末字)出力
現在：　あり	現在：　なし
あり　　なし	あり　　なし

UPC-A チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

G.5-3-3　E 先頭 0 出力（UPC-E 各種バー設定）

E　先頭0出力	E　先頭0出力
現在：　あり	現在：　なし
あり　　なし	あり　　なし

UPC-E 先頭 0 出力設定及び確認画面:

G.5-3-4　E CC(末字)出力（UPC-E 各種バー設定）

E CC(末字)出力 現在：　あり あり　　なし	E CC(末字)出力 現在：　なし あり　　なし

UPC-E チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

設定番号 30～33、47～50 の設定値	機能
A 先頭 0 出力	[あり]の場合、UPC-A で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、先頭に[0]を付加し 13 桁にし EAN13 として扱います。 [なし]の場合、UPC-A で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、先頭に[0]を付加せず 12 桁にします。
A CC(末字)出力	[なし]の場合、UPC-A で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。
E 先頭 0 出力	[あり]の場合、UPC-E で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、先頭の[0]をそのままに 8 桁とします。 [なし]の場合、UPC-E で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、先頭の[0]を外し 7 桁にします。
E CC(末字)出力	[なし]の場合、UPC-E で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。

設定番号 30～33、47～50:「UPC　A/E 詳細設定」

G.5-4 Code 2 of 5（各種バー設定）

[各種バー設定]画面で[Code2of5]を選択すると下記のような画面が表示されます。

Code 2 of 5 各種設定選択画面:

以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

G.5-4-1 チェックキャラクタ検証（Code 2 of 5 各種バー設定）

ﾁｪｯｸｷｬﾗｸﾀ 検証
現在： あり
あり なし

ﾁｪｯｸｷｬﾗｸﾀ 検証
現在： なし
あり なし

Code 2 of 5 チェックキャラクタ検証設定及び確認画面:

G.5-4-2 CC(末文字)出力（Code 2 of 5 各種バー設定）

CC(末文字)出力
現在： あり
あり なし

CC(末文字)出力
現在： なし
あり なし

Code 2 of 5 チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

設定番号 34～35、51～52 の設定値	機能
チェックキャラクタ検証	インターリーブド 2of5 及びインダストリアル 2of5 で作られたバーコードを読み取る際に、チェックキャラクタ(チェックデジット)の検証の有無を設定します。 [あり]の場合、チェックキャラクタが付加されていない若しくは間違っているバーコードは読み取れません。
CC(末文字)出力	[なし]の場合、インターリーブド 2of5 及びインダストリアル 2of5 で作られたバーコードを読取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。

設定番号 34～35、51～52:「Code 2 of 5 詳細設定」

G.5-5 NW7（各種バー設定）

[各種バー設定]画面で[NW7]を選択すると下記のような画面が表示されます。

NW7(Codabar)各種設定選択画面:

以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

G.5-5-1 チェックキャラクタ検証（NW7　Codabar　各種バー設定）

NW7(Codabar)チェックキャラクタ検証設定及び確認画面:

G.5-5-2 CC(末文字)出力（NW7　Codabar　各種バー設定）

NW7(Codabar)チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

~~G.5-5-3 許容最小文字数（NW7　Codabar　各種バー設定）~~

~~NW7(Codabar)許容最小文字数設定及び確認画面:~~

※ハードウェア改訂に伴い機能削除

G.5-5-4 スタートストップ出力（NW7 Codabar 各種バー設定）

ｽﾀｰﾄｽﾄｯﾌﾟ 出力	ｽﾀｰﾄｽﾄｯﾌﾟ 出力
現在： あり	現在： なし
あり　　なし	あり　　なし

NW7(Codabar) スタートストップ出力設定及び確認画面：

G.5-5-5 スタ／スト 大 or 小（NW7 Codabar 各種バー設定）

ｽﾀ/ｽﾄ 大 or 小	ｽﾀ/ｽﾄ 大 or 小
現在： 大文字	現在： 小文字
大文字　　小文字	大文字　　小文字

NW7(Codabar) スタートストップ文字サイズ設定及び確認画面：

G.5-5-6-1 ストップトラディショナル（NW7 Codabar 各種バー設定）

ｽﾄｯﾌﾟ ﾄﾗﾃﾞｨｼｮﾅﾙ	ｽﾄｯﾌﾟ ﾄﾗﾃﾞｨｼｮﾅﾙ
現在： TN*E	現在： ABCD
TN*E　　ABCD	TN*E　　ABCD

NW7(Codabar) ストップコード種類設定及び確認画面(大文字時)：

G.5-5-6-2 ストップトラディショナル（NW7 Codabar 各種バー設定）

ｽﾄｯﾌﾟ ﾄﾗﾃﾞｨｼｮﾅﾙ	ｽﾄｯﾌﾟ ﾄﾗﾃﾞｨｼｮﾅﾙ
現在： tn*e	現在： abcd
tn*e　　abcd	tn*e　　abcd

NW7(Codabar) ストップコード種類設定及び確認画面(小文字時)：

設定番号 36～41、53～58 の設定値	機能
チェックキャラクタ検証	NW7(Codabar)で作られたバーコードを読み取る際に、チェックキャラクタ(チェックデジット)モジュラス 16 の検証の有無を設定します。 [あり]の場合、チェックキャラクタが付加されていない若しくは間違っている、チェックキャラクタ計算方法が違う場合、バーコードは読み取れません。
CC(末文字)出力	[なし]の場合、NW7(Codabar)で作られたバーコードを読取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。
許容最小文字数	NW7(Codabar)で作られたバーコードの最小桁数を設定出来ます。[5 文字]とした場合、5 桁未満のバーコードは読めません。
スタートストップ出力	[なし]の場合、NW7(Codabar)で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、スタートストップコード(abcdABCDtn*eTN*E)を除去します。
スタ／スト　大　or　小	スタートストップコードを大文字若しくは小文字の選択出来ます。
ストップトラディショナル	ストップコードに関して abcdABCD 若しくは tn*eTN*E の選択できます。

設定番号 36～41、53～58:「NW7(Codabar)詳細設定」

※罫線のある項目はハードウェア改訂に伴い、一旦削除されております。

G.6 端末 ID 設定

[システム設定]メニューで[6. 端末 ID 設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。2 段目に現在の設定状況が表示されます。 [Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーを使用して端末 ID を変更して下さい。

```
＊端末 ID 設定＊
0001

中止  変更  移動
```

[Q2]キーで変更する桁を移動し、[トリガー]キーで数値を Up させます。[Q1]キーでは変更作業を中止し、[システム設定]画面に戻ります。カーソルは千の位から一の位へ左から右へ移動します。

端末 ID 設定及び確認画面:

```
＊端末 ID 設定＊
0001
設定しますか？
中止  設定  移動
```

一の位の次に[Q2]キーで移動したときに、左記のような画面に変わり、[トリガー]キーは端末 ID の設定ボタンに変わります。[Q1]キーでは変更作業を中止し、[システム設定]画面に戻ります。

端末 ID 設定確認画面:

```
＊端末 ID 設定＊
端末 ID を
設定しました
            確認
```

端末 ID の設定が正しく行われると左記のように表示します。[Q2]キーで[システム設定]画面を表示します。

端末 ID 設定終了画面:

G.7 日時設定

[システム設定]メニューで[7. 日時設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。
1段目に日付、2段目に時間が表示されます。 [Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーを使用して日時を変更して下さい。

05/08/10 10:10:05 中止 変更 移動

日時設定及び確認画面:

[Q2]キーで変更する桁を移動し、[トリガー]キーで数値をUpさせます。[Q1]キーでは変更作業を中止し、[システム設定]画面に戻ります。カーソルは年月日時分秒と左から右、1段目から2段目へ移動します。

05/08/10 10:10:05 設定しますか? 中止 設定 移動

日時設定確認画面:

秒の次に[Q2]キーで移動したときに、左記のような画面に変わり、[トリガー]キーは日時の設定ボタンに変わります。[Q1]キーでは変更作業を中止し、[システム設定]画面に戻ります。

日時を 設定しました 確認

日時設定終了画面:

日時の設定が正しく行われると左記のように表示します。
[Q2]キーで[システム設定]画面を表示します。

G.8 オートパワーオフ設定

[システム設定]メニューで[8. オートワパーオフ]を選択すると下記のような画面が表示されます。
2 段目に現在設定されている、自動電源 OFF までの秒が表示されます。 [Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーを使用してオートパワーオフを変更して下さい。

[Q1][Q2]キーでリスト選択、 [トリガー]キーで確定させます。

オートパワーオフ設定及び確認画面:

設定番号 59 の設定値	自動電源 OFF までの秒							
オートパワーオフ(秒)	5	10	15	30	45	60	120	180

設定番号 59:「オートパワーオフ設定」

オートパワーオフ時間とは、キー押下などの操作を行わずに、一定時間放置すると、自然に動作が終了するタイマー時間です。終了した状態で、いずれかのキーを押すと、終了した画面から動作が再開します。

G.10 音設定

[システム設定]メニューで[9. 音設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。
2 段目に現在設定されている、音設定が表示されます。 [Q1][Q2]キーそれぞれを使用して音設定を変更して下さい。

動作音設定及び確認画面:

キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

設定番号 60 の設定値	機能
音あり	端末操作時に音が鳴ります。
音なし	端末操作時に音が鳴りません。

設定番号 60:「オートパワーオフ設定」

G.11 設定初期化

[システム設定]メニューで[0. 設定初期化]を選択すると下記のような画面が表示されます。
現在保存中のデータも削除されますので注意が必要です。 [Q1][Q2]キーで作業を選択して下さい。

当作業は保存中
ﾃﾞｰﾀを消します
実行しますか?
はい　　いいえ

設定初期化確認画面:

初期化される設定番号は2～58 で以下のとおりです。

[5.データ初期化]
　保存桁数
[6.システム設定]
　1.数量設定
　2.送信時データ扱
　3.読取バー設定
　4.各種バー設定

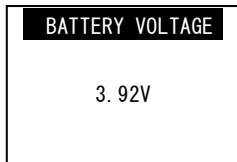
初期化後は各種デフォルト値になります。(P9～P10 参照)

H. 電池残量

H.1 開始

[メインメニュー]で[7. 電池残量]を選択して[トリガー]キーを押します。

```
BATTERY VOLTAGE

3.92V
```

[Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーのいずれかでメインメニューに戻ります。

電池残量確認画面:

I. 空きメモリ

I.1 開始

[メインメニュー]で[8. 空きメモリ]を選択して[トリガー]キーを押します。

```
FREE MEMORY

90000 Bytes
Roughly 700 times
```

[Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーのいずれかでメインメニューに戻ります。
3 段目に現在の空き容量が表示され、4 段目に残り照合結果保存予定数が表示されます。この保存回数はその時々の空き容量に依存しますので、Roughly(約)という表現になっております。あくまで目安としてお考え下さい。

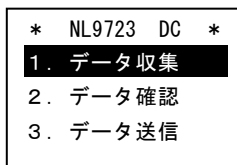
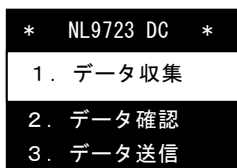
空きメモリ及び想定保存可能残数確認画面:

J. 反転

J.1 開始

[メインメニュー]で[9. 反転]を選択して[トリガー]キーを押します。

```
*  NL9723  DC  *
1. データ収集
2. データ確認
3. データ送信
```

```
*  NL9723 DC  *
1. データ収集
2. データ確認
3. データ送信
```

画面表示の白黒を反転させます。デフォルトは白地に黒文字ですが、お好みで反転させてご利用下さい。

反転画面　例

8:仕様

1. 電気的特性	主電池	:リチウムイオン充電池
	副電池	:二酸化マンガンリチウム 2 次電池
	操作時間	:50 時間(主電池)
	データ保持時間	:72 時間(副電池)
	充電方法	:クレードルによる本体充電
2. 環境条件	動作温度	: 0℃ 〜 40℃
	保存温度	: -20℃ 〜 60℃
	動作湿度	: 20% 〜 80%RH(結露無きこと)
	保存湿度	: 20% 〜 90%RH(結露無きこと)
	耐落下強度	:1.5m
3. 光学的特性	光源	:赤色半導体レーザ 波長 650nm
	走査速度	:100 スキャン/秒
	最小 PCS 値	:0.45
	最小分解能	:0.127mm
4. 液晶表示部	表示サイズ	:112 x 64 ドット
	文字の種類	:英数字、漢字
	バックライト	:無し
	表示桁数	:16 ドット 7 桁
5. 機能仕様	CPU	:16bit マイコン
	SRAM	:128KB(内、40KB 弱はプログラム使用)
	読取り確認	:ブザー及び LED
	キーボード	:3キー(Q1、トリガー、Q2)
6. メモリ	記憶データ件数	:700 件〜1800 件 (データ初期化時の保存桁数設定[4〜40]によって可変)
7. 適合規格	レーザ製品安全規格 JIS C 6802 Class2 準拠、VCCI クラス B 準拠	
8. 同梱品	リチウムイオン充電池、ハンドストラップ	
9. 通信部	IrDA	:Ver1.2 準拠
	プロトコル	:独自プロトコル (通信速度 115,200bps)

10. 質量　　　　　:約 85g(電池の重さ含む)

11. 外観・寸法　最外形寸法 :（幅）44mm×（長さ）125mm×（高さ）19mm

12. 読取仕様
読取幅
最大 243mm（読取深度　300mm、分解能 1.0 時）
最小 44mm（読取深度　35mm、分解能 0.15 時）

読取幅(mm)	読取深度(mm)	分解能
44	35	0.15
63	60	0.15
71	70	0.15
108	120	0.25
176	210	0.5
243	300	1.0

※読取幅は算出値であり、これを保障するものではありません。

13. 読取りバーコード
以下の8種類のコードを自動識別し読み取ります。

1）WPC
(A) JAN ： JAN13, JAN8
(B) EAN ： EAN13, EAN8
(C) UPC ： UPC-A, UPC-E

2) NW7（Codabar）

3）CODE39

4）インターリーブド 2 of 5

5）インダストリアル 2 of 5

6）CODE93

7）CODE128

8）EAN128

9）I A T A

【補足】
スタートストップやチェックキャラクタ(チェックデジット)等は、
本体プログラムシステム設定によって、桁数に含む・含まないは可変です。

日栄インテック株式会社

バーコードグループ

http://www.barcode.ne.jp/

〒110-0016 東京都台東区台東 3-42-5
日栄インテック御徒町第１ビル
TEL:03-5816-7141 FAX:03-5816-7140
info@barcode.ne.jp